



第47回 関西ライフサイエンス リーディングサイエンティストセミナー

本セミナーは、ライフサイエンス分野で最先端の研究を展開されている関西の先生方にご講演をいただき、製薬、医療機器、診断薬、健康食品、医療関係者などのライフサイエンス関係者および一般の方々に、健康・医療産業に対するインスピレーションと産業化へのイマジネーションを感じていただくことを目的としています。

このことは、産官学にわたる組織横断的なコミュニティの醸成と、産官学の対話促進につながるものと期待しています。

本セミナーは、3か月に一度の頻度で開催し、毎回2名の講師の先生から、最先端の研究についてホットな話題をお聞きいただけます。皆様のご参加をお待ちしております。

記

日時：2026年**5月19日（火）** 14:00—16:00

開催方法：オンライン開催

◆zoom ウェビナーを使用します

参加費：無料

主催：NPO 法人近畿バイオインダストリー振興会議

共催：バイオコミュニティ関西 (BioCK)

後援：関西医薬品協会

講演 I 14:00 - 15:00

「独自のトランスクリプトーム解析法の設計と医学応用」

京都大学 大学院医学研究科 教授 村川 泰裕 氏

私たちの体の中では、遺伝情報がRNAという分子に写し取られ、生命活動の基盤となっている。しかし、体内にどれほど多くの種類のRNAが存在し、それぞれがどのように働いているのかは、RNA解析技術の限界により、いまだ十分に分かっていない。我々は、独自のロングリード解析技術や空間トランスクリプトーム解析技術を開発している。本セミナーでは、これらの技術を用いて、ヒトの病気の早期診断や新たな治療法の創出につなげる研究を紹介する。

講演Ⅱ 15:00 - 16:00

「【今】と【ここ】は脳のどこにあるのか

—脳のネットワークの中心・楔前部が担う意識の基盤—」

大阪大学 大学院医学系研究科・生理学講座（脳生理学） 教授 北澤 茂 氏

私たちの意識は、時間の「今」、場所の「ここ」、人格の「私」に属している。これら三要素は脳のどこで結び付けられているのだろうか。本講演では、自験データをもとに、脳のネットワーク中心に位置する楔前部が「今」と「ここ」に関する情報を統合している可能性を検討する。楔前部はアルツハイマー病で発症より20年も先行してアミロイド β が蓄積し始める領域でもある。認知症の初期症状や人工知能との比較を通じて、意識の神経基盤について考察する。

申込先：参加希望者は2026年5月18日（月）までに、

NPO 法人近畿バイオインダストリー振興会議のホームページからお申込みください。

URL：<https://kinkibio.com/informations/5222>

こちらからもお申込みいただけます



問合先：NPO 法人近畿バイオインダストリー振興会議 事務局 電話：06-4963-2107（櫻井・大嶋）

公益財団法人都市活力研究所

電話：06-6359-1322（石田）